

平成 26 年度 事業報告書

(第 23 期)

自 平成 26 年 4 月 1 日

至 平成 27 年 3 月 31 日

(設立許可 平成 3 年 12 月 20 日)

公益財団法人 ホソカワ粉体工学振興財団
枚方市招提田近 1 丁目 9 番地

平成 26 年度 実施事業の概要

本年度は、平成 26 年 2 月の理事会ならびに同 3 月に開催された評議員会において決定された事業計画書に従い、以下の事業を実施した。

I. 一般助成事業（事業管理費を含む実施額 2,716 万円、予算額 2,610 万円）

本年度は、年度計画に従い助成事業の中の 4 つの助成等を実施した。実施に当たっては、平成 26 年 5 月に助成事業の募集を開始し、応募締切日 7 月 20 日までに提出された申請書類を基にして 8 月 20 日に選考委員会を開いて審査分担を決めて採点が行われた。その結果に基づき選考委員会の推薦案をまとめ、12 月 10 日の理事会にて受贈者が決定した。贈呈式は平成 27 年 3 月 9 日にホソカワミクロン本社にて開催され、33 名の受贈者を含め 55 名の出席があった。

1) 研究助成（助成金配分額 1,940 万円）

本年度は 126 件の応募があり、その中から 23 件の研究に対して助成することが決定された。研究助成については、採択率が 20%程度以上になることを目指しているが、本年度は、昨年度よりも予算が削減した状況の中で、採点結果において次点者数が多くなったため採択順位と件数が絞られ、結果として 1 件当たりの助成額は増大したものの研究助成の採択率は 18.3%に留まった。

2) KONA 賞の授与（賞金配分額 100 万円）

本年度は 5 件の推薦があり、その中から金沢大学工学部 大谷吉生 教授に、「エアフィルタを中心としたエアロゾルの分離・除去に関する研究」の業績に対して KONA 賞が授与された。

3) シンポジウム等の開催援助（援助金配分額 100 万円）

本年度の応募は 1 件で、粉体工学会（会長：牧野尚夫）から申請のあった第 5 回先進材料の界面制御と評価に関する国際会議（会期：2015 年 7 月 7 日-10 日、場所：倉敷）を援助することになった。

4) 研究者育成のための援助（援助金配分額 270 万円）

本年度は 28 件の応募があり、選考委員会での推薦を受けて理事会で 10 件の採択が決定されたが、その後に援助対象者の 1 名より他の受賞と重複したことによる辞退連絡があり、最終的に 9 名に育成援助が行われた。

II. 特定事業（事業管理費を含む実施額 396 万円、予算額 470 万円）

当財団設立 20 周年記念の特定事業として、平成 24 年度には、1)細川益男メモリアルシンポジウム、ならびに 2)KONA Symposium 2012 を開催した。また、平成 25 年度は、粉体工学の将来を担う若手研究者への研究奨励を図るためにホソカワ粉体工学研究奨励賞の贈呈を行うと共に、粉体工学に関する講演討論会に合わせて、特別記念講演会を開催した。そして、本年度は当初より計画されていた粉体工学に関する第 1 回の国際シンポジウムを以下の通り初めて海外で開催した。

平成 26 年 5 月に同シンポジウムの講演概要を掲載した開催案内、申込書が出来上がり、当財団とホソカワミクロンのホームページに掲載すると共にプレスリリースを行い、日刊工業新聞に案内記事が掲載された。9 月 29 日(月)に予定通り、同シンポジウムをドイツ・アウグスブルクのホソカワアルピネにて開催した。今回のテーマは、“Trends in Powder Technology for New Functional Materials” で、ドイツから 3 名、日本から 1 名の講師の講演をお願いした。出席者数は、開催側の 10 名を含めて 10 カ国から 67 名となり、粉体工学に関する欧日の関係者間で有益な情報交換と人的交流が図られた。本会の開催内容を KONA 誌 No. 32 (2015)に掲載した。

III. 財団自主事業（実施額 1,297 万円、予算 1,326 万円）

1) 粉体工学に関する講演討論会の開催（実施額 436 万円）

第 48 回粉体工学に関する講演討論会のプログラムと講演要旨、申込書を添付した案内状を 6 月から配布すると共に、当財団ならびにホソカワミクロンのホームページに掲載して集客を図った。そして、同講演討論会を 9 月 4 日(木)に東京マリオットホテルにて、「多様なものづくりを支える粉体工学の進歩」をテーマとして開催した。定員 150 名に対して、合計 153 名の参加があった。出席者からのアンケートの集計を行うと共に、本会の開催内容について KONA 誌 No. 32 (2015) に報告記事を掲載した。

なお、本講演討論会の企画は、粉体技術談話会（会長 高橋実 名古屋工業大学名誉教授）に委託して行われた。

2) 国際学術誌「KONA」の発行（実施額 860 万円）

本年度は、合計 22 件の論文（アジア 12 件、欧州 6 件、米国 4 件）を掲載した No. 32 (2015) を 1,800 部印刷し、平成 27 年 1 月 10 日付けで出版し、国内外の読者、大学、図書館等の関係者への発送を行うと共に、財団ホームページに出版の案内を行い、Web ジャーナルを掲載した。

また、本号の紙媒体での出版に先立ち、平成 26 年 6 月に KONA 誌の J-STAGE での早期掲載を初めて実現し、上記 No. 32 については 22 件の論文の内 13 本の論文を J-STAGE で早期掲載した。さらに、No. 1 までの全てのバックナンバーの J-STAGE への掲載も完了し、

その旨を当財団ホームページにてアナウンスした。

平成 27 年 1 月 28 日にアジアブロック編集委員会を開催し、編集方針に関連してオープンアクセスの採用が提案され同意された。また、次号の出版に向けて、29 本の推薦論文の提案があり、執筆の可否の問合せを行った。なお、各ブロックの編集委員会からの推薦により、今年度は増田、Ghadiri、Faerber の 3 氏に KONA Distinguished Service Award が贈呈されることになった。

3) 年報の発行（実施額 45 万円、予算 70 万円）

年報は当財団の活動状況と財団の助成を受けた研究の成果等を公表するために発行される。年報 No. 21(2013)は、平成 25 年度の活動状況報告を中心としたもので、研究助成の成果については、平成 23 年度分 14 件と、平成 24 年度分 3 件の合計 17 件の成果報告書を掲載し、平成 26 年 5 月に発行した。なお、当財団の年報は平成 20 年以降、冊子での発行を取り止め、ホームページでの掲載のみとなっている。

以上